

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策			
		評価指標と活動計画	評価					
基本的な生活習慣の確立	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) 毎日の登校指導では、職員と生徒の心の交流を目指し、校門で挨拶を交わしたり、声を掛けることを全職員で取り組んだ。入学当時は挨拶ができなかった生徒も、だんだん挨拶ができるようになってきた。生徒の変化に敏感に対応し、担任を中心に家庭との連携を大切にしてきたため、いじめや非行問題の早期発見ができた。また、問題解決においては、担任のみならず、副担任、学年団、部活動顧問など全職員が一致団結し、組織的に解決に当たることができた。また、中学校、地域、警察・教育委員会などの外部機関の協力が得られたことで、問題が深刻化することがなかった。学校の指導に対し、保護者の協力が得にくい場合もあったのが、粘り強く報連相を重ねた結果、問題解決ができた。今年度から実施した美化委員による清掃状況チェックは、自他のクラスを比較することにより課題が浮き彫りにされ、環境整備に役立った。  〇欠席・遅刻する生徒に対して、家庭連絡を必ず行っている。いつも子どもたちのことを気に掛けてくれて感謝している。  〇周辺高校と比較されるが、就職に強い普通科という特色を打ち出したい。  〇様々なボランティアに参加することは、自己有用感の育成に役立っていると思う。	〇手帳を有効に活用できている生徒が少ない。授業やHR活動、集会などの機会を捉えて手帳を利用する習慣を定着させる。 〇命の教育の中でいじめ、暴力を絶対にしない・許さない指導を行う。 〇あらゆる場面を利用し、交通安全・マナーの再認識を図る。  〇制服の一部改定を含め、着こなし・身だしなみの指導を行う。  〇「割れ窓理論」という言葉がある。今後も問題が深刻化しないよう適切な初期対応が大切である。  〇環境整備について、生徒の美化意識を高めるためには家庭でのしつけが大事である。保護者にも協力を得たい。  〇私物の整理整頓を意識付ける。清掃コンテスト等を実施し、全員が清掃に取り組む動機付けをする。  〇実習に協力してくれる園や老人ホームを増やし、参加生徒を増やす。  〇修学旅行等の学校行事や調理実習では、アレルギーを持つ生徒の対応が課題であるので、食育の面からも家庭との連携をさらに密にしてい			
	1) 生徒指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努める。	1) 頭髪服装指導を毎月実施	1) 服装頭髪指導の毎月実施率100%					
	2) 自他の人権を尊重する態度を育成する。	1)-2 能率手帳の有効使用	1)-2 集会時のメモ用、学習時間の記録等に利用した。3年生では受験や就職活動にも適宜使用した。					
	3) 交通安全を指導し、命の大切さを教育する。	2)-1 人権学習HRを各学年7回実施	2)-1 人権学習HR7回、各学年達成。身のまわりの人権問題や部落史学習などを適宜実施した。					
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況					
	① 授業、部活動等学校生活すべての場面での生活指導	①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で毎月1回頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。	①-1 全校一斉での頭髪服装指導後も個別に再検査を行い、合格するまで根気強く指導した					
		①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を入学時に実施する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を授業中に指導する。	①-2 1年次最初に授業の受け方についての指導を実施。課題については、提出状況を生徒に確実に知らせ、提出を徹底した。					
		①-3 能率手帳を学年集会などに持参させメモをとらせる習慣を身につけさせる。生活記録としても手帳を使用し家庭学習の定着をはかる。	①-3 学年集会や進路説明会、就職試験に持参し、メモや日程を記入するように指導した。また、家庭での学習時間を意識させるために定期考査前などに手帳の点検を行った。					
		①-4 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導し、特に体育科では集団行動の指導を徹底する。	①-4 挨拶はよくなるようになってきたが、身だしなみについての指示はできていないことがある。体育科では、集団行動の指導は徹底できたが、HRや授業で、挨拶、言葉遣い、身だしなみの指導ができていないことがあった。					
		①-5 生徒が落ち着いた学校生活を送るために、清掃美化の徹底と教室環境の整備を行い、校内環境全般の整備を進める。	①-5 廊下や通路に落ちているガム・ゴミはすいぶん少なくなった。ロッカーの上の荷物も少なくなり、学習環境は良くなっている。					
	② 保護者、地域等との連絡強化	② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・管理職等との面談を実施する。	② カード記入や家庭連絡は徹底できた。昨年度より学年主任・管理職面談数は減少した。毎年面談数は減少傾向にある。					
	③ 交通安全指導・挨拶運動の実施	③ 登校時、校門前で交通安全指導と挨拶運動を行う。	③ 生徒会役員・野球部員とともに毎朝挨拶運動を行い、自転車マナーについても指導した。					
④ 生徒の心身の健康	④-1 心の悩みが聞ける雰囲気をつくる。睡眠や食生活の大切さを、養護教諭や体育・家庭科の教員、教育相談員等で連絡を取りながら教える。	④-1 毎日出欠白板から出欠状況を把握し、養護教諭から保健室を利用する生徒の様子を聞き、担任や学年団で対応した。家庭科では、調理室の湯沸かし器がそろい快適に実習ができ、意欲があがった。						
	④-2 自己有用感を育成する。各種大会への作品応募により達成感と身につけさせる。ボランティア活動への参加により、思いやりの気持ちを育てる。	④-2 年2回の通学路清掃ボランティアに全校生徒が参加した。またJRC部ではあしなが募金など3回の校外活動、家庭科では老人ホーム、保育園での実習に意欲的に参加した。						
	④-3 「家庭基礎」の授業を通じて食と健康の関連について指導する。	④-3 生徒授業評価アンケートでは、95%の生徒が理解出来ているとの結果が得られた。						
確かな学力の育成	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) 義務教育での習熟度に差があるため、1年4月中の授業では「スマイル」を利用しているが、アンケートでは1年生の88%が「学び直しに効果があった」と答えている。授業評価アンケートでは、生徒の授業に対する満足度は高かったが、自分ではやるべきことを見つけない生徒が多いため、家庭学習では週末課題に取り組む程度であるため、家庭学習時間が少ない。今年度から教務規定を見直し、履修条件を厳しくしたため、成績が不振であったり、遅刻の多い生徒については保護者との連携を一層密にした結果、学校全体の補講時間数は大きく減少した。  〇単位の利点を活かし、習熟度別に授業ができていたが、もっと学力向上に特化したクラス編成ができないか。  〇朝の読書がやや形骸化していないか。絵本なども積極的に利用すればよい。	〇スマイルの使用期間・使用方法は教科の量だが、さらに効果が上がるよう改善したい。  〇学習内容を検討しALの導入や、ICTの活用をすすめて、よりいっそう満足度を上げる。  〇学校行事と重なりチャレンジタイムが実施できないことがあった。週末課題等の提出率はよくなっているが、学力の定着につながるよう週末課題の内容の改善を図る。  〇図書室内の配置・広報活動・行事を工夫して、活字離れを食い止め、本年度並の図書利用を目指す。  〇基本的な生活習慣の確立と学力の育成とは相関関係にあるので、手帳の効果的な使い方を模索していく。			
	1) 基礎学力の向上を図る。	1) 授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回	1) 授業評価アンケート結果に基づく検討や、教材の検討を中心に教科会を実施した。情報科では、授業内容の検討会を各学期に1度実施。地歴公民科では、2年次研修1名、5年次研修2名による研究授業を行い、授業内容の研究・検討を実施することができた。					
	2) わかる授業を展開する。	2) 授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上	2) すべての教科で生徒の満足度80%以上、90%を超える教科(国、地歴公民、体、芸、情)もあった。					
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況					
	① 学び直し教材「smile」の活用	① 1学年の国数英で学び直し教材の活用を徹底する。	① 国数英の3教科とも4月中「スマイル」を用いて中学の復習をした。					
	② 授業評価結果の活用	② 生徒を対象に授業評価アンケートを年2回実施する。教科会を開き、参加意欲の低い原因を探り改善に努める。	② 6月と11月にアンケートを実施し、各教科において検討会を開き、授業の充実、参加意欲の高揚に向けた具体的方策を見だし共通理解を図った。が、家庭科など教科担任が一人の教科では検討が難しい面もある。					
	③ 教材の精選や授業の工夫、校外の講座等の参加、各種資格取得	③ 実験や実習を多く取り入れ、生徒が興味関心を持つ授業を展開する。	③ 情報科では実習を毎学期実施した。アンケートでも興味をもった生徒が多かった。家庭科では調理実習や被服実習に意欲を持って参加する生徒が多い。理科においても実験や野外観察に、生徒は積極的に参加しており、満足度は高い。					
	④ 学習時間の確保	④ チャレンジタイム(テスト前の自主学習時間)や週末課題の実施等で学習時間の確保をする。	④ 週末課題や長期休暇課題の未提出者の把握を、教科担任だけでなく、学年全体で共有することにより、連携をとって確実に提出するよう指導し、提出率は増加した。					
	⑤ 図書の貸し出しの推進	⑤ 入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促す。「図書館便り」で本の紹介をする。	⑤ 耐震工事に伴う図書室移転のため、図書室の利用や貸し出し業務に支障を来すことも多かったが、昨年並みの貸し出し冊数を維持できた。					
	⑥ 不登校傾向の生徒の学びの場の保障	⑥ 本人の希望を聞き、家庭訪問時の授業プリントの持参や別室登校の措置をとる。学年会は毎月、教育相談課会議は学期ごとにとり共通理解をはかる。	⑥ 学年会で不登校気味の生徒の現状や対応への共通理解を図った。今年度は別室登校の措置が必要な生徒はいなかった。					
	進路指導の充実	(全校レベル)	評価指標			評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) 昨年度より就職希望生の割合は増えたが、1学期の早い段階から就職開拓や筆記試験対策・面接指導に取り組んだことにより、学校推薦の生徒は全員希望通り就職先が決定した。進学においても国公立大3名合格をはじめ、進学希望生ほぼ全員希望通りの進学先に合格した。1年次のインターンシップも今年度は全員参加することができ、職業観の育成に効果があった。  〇生徒に進路目標を設定させるには、毎日、新聞を読ませることが効果的ではないか。最近、新聞を購読しない家庭が増えてきているなか、図書室の新聞を有効活用したい。	〇科目選択のガイダンスを充実させるとともに、より良い教育課程の編成のために、教育課程検討委員会の活性化などに努めていく。  〇保護者対象の進路説明会や進路に関する三者面談の充実を図り、PTAの協力を得て、保護者の出席率を向上させる。  〇1年次のインターンシップは職業観の育成に有意義である。今後も続けて欲しい。 〇就職希望者に対して手厚い指導をしてきている。  〇1年次のインターンシップ、各学年で実施している進路ガイダンスと、「学び直し」をどのように関連づけ行っているか、見直していく。
		1) 多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。	1) 各学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施			1) 校内の進路ガイダンスは予定通り実施できた。校外でのガイダンスは、オープン・キャンパスが主流となってきたため、参加者は一定数あるものの、多くはない。		
2) 教育課程を充実する。		2) 学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上、生徒対象の科目選択説明会実施、学年団による科目検討会実施	2) ほぼ充実している以上の割合は、生徒約79%、保護者約76%、教員約87%であった。					
(下位組織レベル)		活動計画	活動計画の実施状況					
① 進路相談の機会の増加		① 放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。	① 全学年、各学期冒頭に設けた面談時間で生徒との面談をした。3年生では放課後や休憩時間を利用し、個別面談を適宜実施したり、部活動顧問とも連携し希望進路を実現したケースも多かった。					
② 進路別の補習授業		② 進路別の補習参加人数が5割以上を目指す。	② 補習参加人数は平均して5割を上回った。					
③ 生徒、保護者の希望進路の実現		③ 担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報を伝える。PTA研修会で県内外の大学・専門学校等の訪問を行う。	③ 日常的に電話連絡や面談はできている。保護者にはPTA研修会を2回実施し、大学・中学校・専門学校を訪問した。子どもと保護者が共に進路について考え、行動して目標を設定し、達成に向けて取り組むことの重要性を学んだ。					
④ 進路関係図書の貸出促進		④ 進路関係図書を特集展開する。関連図書の貸出数をのべ15冊以上にする。	④ 進路関係図書の利用生徒数は多くないが、貸し出し冊数は目標以上となった。					